



# 港工同窓会 ニュース

臨時号 平成 25 年 10 月 20 日発行 発行責任者 前田武男

## 25周年記念総会を終えて!!

港工同窓会会計理事

港全 16 期自動車科卒 松岡 信之

平成元年(度)に再興して 25 年を迎へ、去る 6 月 15 日、記念総会として総会・懇親会共に芝パークホテルにて開催しました。

総会は 24 年度の事業報告・決算報告、25 年度の役員・計画及び予算が承認された後、同窓会存続の是非について討論が行われた。

はがきアンケートの結果は、必要 45%、不要 17% に対し、賛助金納入意志ありは 63% であり、文面から「継続せよとは言えないが、続くんは賛助金を納入する」との意見が多く寄せられた。

質疑応答では、これまで住所判明者約 5 千名全員に会報を発送していることが経費上の問題であることを説明、今後は臨時号と同様に賛助金納入者・恩師約 2 千名以下に絞る等簡略化を計り、存続すべしとのご意見が大勢でした。

第 12 代校長関透先生の挨拶と乾杯の発声で開演した懇親会は、記念イベントとして世界的マジシャンで港 36 期 C 同窓生の前田知洋氏によるテーブルマジックの披露が行われました。

今回は六郷工科高校 F A T (P T

A) を招待し、会員の家族無料同伴を認めたため、女性を含め 50 名を超える参加者で賑わう中で前田知洋氏は各テーブルをまわって妙技を披露され、サインや写真撮影に精力的に応じて戴き、おおいに盛り上がりをもせ、楽しい一時を過ごすことが出来ました。

今回は福島在住の 37 期(定) M の方と東京在住の 38 期(定) M の方が懇親会を活用して久し振りに再会されました。また、加藤先生の教えの 32 期 E の方が初めて参加されました。

秋の六郷祭の同窓会ブースにも、毎年何名かの若い方が来られてアルバムをめくる姿が見られます(勿論年配の方も見えます)。皆様のお話を伺っていると、同窓会を続けていて良かったなと思う次第です。

いづれは消滅するとしてもその前にこれから同窓会が必要となる若い方々がいるのです。クラス会等の活動が無い方々です。毎年 200 通程度の異動連絡があり、名簿の修正を行い最新状態にしています。

名簿の維持管理、総会懇親会の開催、同窓会ニュースの発行、六郷祭の同窓会ブースの開設は、賛同者がいる限りは続けるべしと思いを新たにしました。

六郷工科高校が創立 10 周年を迎

え、記念式典に前田会長が出席しました。母校は無くなったが我々の居場所はまだまだあると思っています。賑ぎわいのある同窓会にすべく、皆様のご支援をお願いします。

## ◇ 第 10 回 六 郷 祭 のお知らせ ◇

日 時 : 平成 25 年 11 月 2 日(土) 13 時～16 時  
3 日(日) 9 時～15 時 30 分  
場 所 : 東京都立六郷工科高等学校

京浜急行「雑色」下車国道沿い徒歩 3 分  
校内自動車工場には、懐かしの A 型フォードが保存されています。  
設備の多くに港工の機器が活用されている校内を見学できます。  
「港工同窓会の部屋」を用意し、昔のアルバム等の資料を展示します。

・・・見学前後の休憩・歓談にお立ち寄り下さい・・・

再興 25 周年記念総会懇親会



「奇跡の指先を持つ男」と呼ばれる前田知洋氏の華麗な指さばきに、テーブルの周りからは感嘆の聲が上がる！

- |                |         |       |
|----------------|---------|-------|
| 港(全)           | 11 期 E2 | 酒井 紀茂 |
| 港(定)           | 10 期 C  | 高橋 良介 |
| 港(定)           | 10 期 E  | 市村 稔  |
| 港(全)           | 8 期 M   | 押田 義男 |
| 港(全)           | 8 期 M   | 赤川 秀夫 |
| 港(全)           | 7 期 P   | 西山 孝夫 |
| ※遺族よりご寄付を戴きました |         |       |
| 港(全)           | 6 期 C   | 窪田 忠雄 |
| 港(全)           | 4 期 P   | 斧淵 剛  |
| 港(定)           | 3 期 C   | 初田 貞次 |
| 港(定)           | 3 期 E   | 松岡 金満 |
| 港(全)           | 3 期 E   | 伊東 将勝 |
| 港(全)           | 3 期 A   | 高瀬 利益 |
| 港(全)           | 2 期 C   | 石川 幹雄 |
| 港(全)           | 2 期 A   | 村上 七郎 |
| 港(定)           | 1 期 E   | 田中 陽一 |
| 麻布一本           | 7 期 M   | 小島 宏  |
| 麻布一本           | 3 期 M   | 高内 義雄 |
| 麻布一本           | 2 期 E   | 菊地 治男 |
| 麻布一本           | 1 期 E   | 安原 義一 |
| 高輪二本           | 10 期 M  | 折井 勝  |
| 高輪二本           | 10 期 M  | 三浦 昇  |
| 高輪一本           | 5 期 MA  | 片岩 孝  |

計 報 (敬称略)

- |                     |
|---------------------|
| 恩 師 計 報             |
| 山本 昭貴 (機械) 全        |
| 植松 基 (機械) 全         |
| ご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略) |

- |      |         |       |
|------|---------|-------|
| 港(定) | 14 期 MA | 町田 昌敏 |
| 港(全) | 17 期 C  | 渡井 祐二 |
| 港(全) | 19 期 E1 | 高見 光平 |
| 港(全) | 22 期 E2 | 西野 晴雄 |
| 港(全) | 28 期 E1 | 古川 富郎 |
| 港(全) | 34 期 A  | 鈴木 昇  |
| 港(全) | 34 期 E1 | 水野 昭弘 |
| 港(定) | 38 期 E  | 森谷 真吾 |
| 港(定) | 49 期 E  | 糠信 富子 |
- ご冥福をお祈り申し上げます

平成 26 年度定期総会・懇親会

来春の定期総会は、六郷工科高校にて総会を行い、懇親会は母校周辺の芝パークホテルを予定します。皆様お誘い合わせのうえ旧交を温められる機会になればと存じます。

記

日時 平成 26 年 6 月 21 日 (土)

場所 総 会 六郷工科高校にて

13 時より

懇親会 芝パークホテルにて

16 時より

※詳細は来年 4 月、学校行事日程決定後にご案内します。

返信ハガキからの  
近況・想い出(25年度)

氏名下に同窓会存続の可否・賛助金納入如何を記載。  
文中一部編集してあります。

○↓同窓会存続要 △↓どちらでも  
×↓同窓会不要。  
①↓賛助金納入する ②↓納入の  
意志無し ③↓不明

高輪(一)1E 岡田 成一 ○①  
牛込(新宿)から市電で通学していたので長時間を要し、学校に着くまで開戦を知らず、学校に着いたとき皆に頭をたたかれたりして、皆興奮していた。始めてB25の空襲を見た。

高輪(一)1E 中川 信二 ○①  
幹事の小倉君が他界してクラス会は休眠状態です。残り少ないメンバーでクラス会の再開を考えております。

高輪(一)3MB 赤生 利夫 ○①  
早坂先生の文の中に高輪工業の事がありました。私の思い出は、校舎の天井に鳩がいて良く鳴いていました。近くに「義士焼き」という 今川焼きみたいなのが有り、よく食べたことも思い出のひとつです。

高輪(一)8M 鈴木 淳一 ○①  
高輪の時代昭和24年卒も遙かなる昔となった。病身なり。当時の担当の明石朗先生の健在が嬉しい。

高輪(二)9E 若月 茂 ×①  
現在もクラス会(輪工九会)を行って居ります。東京に出てきて初めての学校生活でしたので、なつかしいです。残念ながら総会には出席できません。

高輪(二)10M 野田 直嗣 ○①  
会の継続発展をお祈りします。

高輪(二)10M 猪俣 幸一 ○①  
まもなく米寿を迎えます。最近寂しいことですが、万が一のことを考え、家族に迷惑を掛けぬように徐々に「老い支度」に専念しております。持ち物の整理をしていますが、長いこと世話になった品々には愛着が籠り、分身同然の思いでなかなか手放すことができず、気持ちだけが先走って困っている昨今です。

麻布(一)4E 山内 英夫 ○①  
同級生も10人以下になりました。私も今入院中です。昔、NHK大分放送局技術部副部長で転勤したとき、三種主任技術者の資格が必要となり手続きをもらったことを今でもなつかしく想います。

麻布(一)3E 月岡 桂吉 ○①  
二万人にも達する卒業生を持つ同窓会は大切にしたいと思えます。種々の困難はありませうが、一案として同窓会幹部の大幅な若返りを断行したらと思えます。後継者のいない港工同窓会は何れ消滅する運命にあり、その時は六郷の同窓会に合体することになりませう。麻布、高輪が港になったと同様に私達は六郷工科高校の大先輩です。

麻布(一)3E 六川 純男 ○①  
同期も5人程となつてしまひ寂しい限りです。青木栄三郎君、小池直久君、月岡桂吉君、山下直樹君位で、年賀状で連絡をとっている位でお互い身体が不自由になつて居ります。私も去年11月より年末まで入院しまして、現在酸素の世話になつており、雑色は近いのですが仲々歩けず残念です。

麻布(一)4E 津村 勝弥 ○①  
麻工生も86才になりました。足下が少しフラつくので今回は欠席させて頂きます。太平洋戦争末期(S18年頃)私達は麻工の4年生(18才)。代々木の練兵場まで徒步行軍し「電気科」対「機械科」で模擬戦闘演習の訓練をさせられたことを覚えております。今から70年前のことです。

麻布(一)7E 荒井 秀明 ○①  
同窓会の継続は必要あると思えますが、役員の方を20年位若くしないとつづかないと思えます。私達はクラス会を続けていますが、情報不足で同窓会の事を未だに知らない者がたくさんいます。賛助金の納入はしています。

港(全)1E 青沼 弘 ○①  
麻布工、高輪工、港工と戦中戦後を過ごしました。港工の名称在籍は3年生の1年間の卒業でした。社会に入り電気関係の仕事一途で定年過ぎまで勤めさせてもらいました。これも港工卒業生として動乱期での先輩・後輩方の支えがあったことと想っております。同窓会ニュースを頂く度に同窓会に参加させて頂いているようです。記事をなつかしく、又楽しみに読ませて頂いております。八十路を過ぎましたが元気でおります。

港(全)1E 中田 達夫 ○①  
高輪から愛宕に校舎の引っ越しは予算が無く、我々が机を道路に押し運んだ事を思い出します。戦前から住んでいた所が戦火で残ったのに六郷に移転したこと残念。足が弱っているので欠席、寄付金少ないがよろしく。

港(全)2C 中村 俊比古 ○①  
 高齢で会には出席できませんが、会の存続を望みます。同窓会ニュース第12号の初代校長早坂氏の港工誕生に興味有り、出来れば全文のコピーをいただければ幸いに思います。  
 ※編集部注 コピー送付済み

港(全)2C 濱田 静紀 △①  
 早坂朝太郎初代校長の「港工高の誕生(その1)」を拝読して当時が偲ばれ、強い感銘を覚えました。次号「その2」が期待されます。

港(全)2C 三宅 精二 △①  
 同窓会ニュースを拝読し、前田会長の悲痛なまでの叫びを心の奥深くまで受け止めました。私共、2Cは38年間続いたクラス会が今年には開かれませんが、多分このまま消えて無くなるものと思います。クラス会の性格上やむを得ない事ではあります。寂しさは身に沁みます。港工が無いことを考えると、同窓会も似たことになるのでしょうか。港工同窓会の続く間と小生の息のある間は賛助金を納入させて頂きます。

港(全)2C 江崎 博正 ×②  
 申し訳ありませんが現実には会員の年齢など考えると「そろそろかな」と思います。長い間、本当にありがとうございました。

港(全)2M 田村 恵一 ×①  
 同窓会の最大の使命は、新しく社会に出た卒業生が社会で存分に能力を発揮する一助になるような活動にあると思う。残念ながら港工は既に卒業生を生まなくなつて久しい。従つて同窓会活動を存続させる意義は極めて少なくなつたと考える。共に学業に励み友情を育んだ者同士組織は必要と考えるが、其れは同窓会ではないのではないか。

港(全)3C 岩元 譲 ○①  
 体調悪く出席出来ず残念に思っております。同期の前田君、加藤君、元氣でおられるでしょうか。

港(全)3M 加藤 弘 △①  
 「継続は力なり」の言葉もあります。会は続く事に意義があることは当然のことです。当事者が挫折感をもつたときが一番大事なときと思います。一人でも多くの協力者を育てることが急務と思われまます。

港(全)4M 可知 重男 ○①  
 私も80才の台に乗り、少し記憶力が減退してますが、元氣です。

港(全)3A 岡本 英夫 △①  
 ニュース紙に級友の名が載ると懐かしく思います。過年、学校の付近、愛宕山を訪れたら、慈恵病院街に驚きました。白衣の人々が多勢いました。変わりましたね!!

港(全)3A 小倉 昇 △①  
 同窓会、世話して下さいの人が居れば続けてもらいたいが、居なければ続けられないと言う事です。

港(全)3A 鈴木 貞男 △①  
 まだ、若い世代の卒業生も数多くおり、役員の後継者が見つかれば、存続はしてほしい。

港(全)3A 波多野 稔 ○①  
 今秋、隔年実施のクラス会には15、16名の参加予定。卒業後62年を迎えて健康と幸せを確かめ合う有意義なクラス会だ。また2年後も開催できるかどうか、私が最後の世話人になりたくないと思うこの頃だ。

港(全)3A 三宅 晃 △①  
 母校も今は無く、いずれはこういう会は自然消滅するでしょうね。時の流れです。

港(全)4M 秋山 敏朗 ○①  
 港工がなくなつた今、せめて同窓会が残したいと思えます。若いOBの方ががんばってください。昨年、有志6人で小クラス会を開催しました。

港(全)4M 染谷 抱一 ○①  
 体調がすぐれず、今後共、総会、懇親会には出席できませんが、賛助金の納入には協力させていただきます。

港(全)4A 相田 四郎 △①  
 我々も年2回の明石会(クラス会)を楽しくやっています。今年は先生の卒寿、我々の卒寿でした。

港(全)4A 宮田 貢 ○①  
 4Aクラス会は明石先生を迎えて、5月、11月と年2回集まり話に花を咲かせています。先生もお元氣で、昨年は90才のお祝いをしました。

港(全)4E 羽根 高広 ×①  
 我が校が統廃合で消滅した以上、同窓会も消えるのは止むを得ないでしょう。われわれは愛宕山下で学んだ仲間ですから、その記憶は脳裏に歴史として残っています。

港(全)5M 源中 尚 △①  
 平成25年4月21日に5Mクラス会を熱海で行いました。15名出席。同窓会の手伝いは出来ませんが宜しく。

**港(全)4C 阿部 武** ○①  
 会の維持頑張ってください。通勤で雑色駅通過の時つい視線が向いてしまいます。毎年開催のクラス会(12名15名)は「輪港会」とし入学時の高輪工業の名残を止めております。

**港(全)4C 山口 光雄** ○①  
 同窓会ニュース楽しみにしています。同窓会の今後は、何時のことか決めて、六郷工科高同窓会へ、移行・編入・同化、適切な言葉が生まれませんが。

**港(全)4C 山崎 輝男** △①  
 港工同窓会の継続については、六郷工科高校との関連を明確にしてからでない結論は出ないと思います。現状の港工卒業生だけの同窓会ならば、将来自然消滅となるでしょう。

**港(全)4P 加藤 満** ○①  
 那須塩原に住んでおりますが、加齢で移動が若干困難なのでなかなか総会に出席出来ません。しかし、いつかは出席したいと思います。同窓会は、多少会費を値上げしてでも継続していただきたいと思ひます。小生は今ジムニーで近場をドライブするのが趣味です。

**港(全)5C 繁田 道男** ○①  
 私にとって同窓会は大切な会と思っています。

**港(定)4E 鈴木 孝一** ○  
 港工同窓会は存続した方がよい。我々一同は今でも集まったり、手紙のやりとりをしております。今では考えられぬ困難を乗り越えて世の中で成功している人達ばかりです。

**港(全)5C 元吉 茂**  
 六郷工科高校には行ったことはありません。機会があれば行きたいのですが本年80才になり分かりません。

**港(全)5C 大木 繁** ○①  
 六郷工科高同窓生も包含した新同窓会を設立し(仮称・六郷会)港工の遺伝子を継続すべく、六郷工科卒業生にはたけ掛けして実現に向かって頂きたい。(六郷会⇨高輪・麻布・渋谷工業高校・港工業高校・六郷工科高校、卒業生)

**港(全)5C 保田 忠昭** ○①  
 同窓会は必要です。ガンバってください。

**港(全)6C 土子 賢治** ○①  
 会報12号「郵便友の会」の文中に「昭和33年以前には会は無かった筈」とありますが、昭和26年には既に有り、私は入会しました。『瑞至小授章』(教育功労)の叙勲を受けました。これも母校の教育の賜であり感謝いたしております。

**港(全)7M 中島 勇** ○①  
 7期機械科40名のうち、連絡が取れるのが約10名。今年は何とかクラスの開催を考えています。愛宕下の3年間で小生の人生77年のうちの大きな青春時代を感じます。港工高のお陰です。学校が無くなり残念。

**港(全)7C 小暮 憲司** ○①  
 4月21〜23日、クラスメート6名で箱根へ旅行。恩賜箱根公園を散策後、三嶋大社を参拝。名物「うな重」を食し、後期高齢者のパワー充電。

**港(定)7M 中原 忠男** ×①  
 同窓会ニュースをお送り頂き感謝申し上げます。早坂朝太郎先生の記事を拝見しました。先生の温顔が浮かび、名校長の有りし日が懐かしくなりました。先生のお作りになった、校友の歌は同級会の折りには全員で合唱します。(私の頃には校歌が有りませんでした)私の港工同窓会は廃校と共に無くなった感じですが。共に学んだ「クラス会」は存続していますが、同窓会の役割は無くなった感じです。

**港(全)8E 中尾 力** ○①  
 同窓会ニュース読みました。定期総会には出席できませんが、賛助金二千円と別に、一万円納めました。今後ともよろしく願ひします。

**港(全)7M 湯浅 重幸** △①  
 港工同窓会定期総会が行われますが、感謝の一言です。参加者の減少は時の流れ、解散はやむをえないと思う。

**港(定)7M 小川 昭次** ○①  
 お手伝い出来ず申し訳ありません。今後ともよろしく申し上げます。

**港(全)8E 岡村 政一** ×①  
 毎年クラス会を開催し、約10名の出席があります。但し、皆さん同窓会への出席は希望していません。母校が廃校になり後輩がいなくなるので継続は無理と思ひます。どこかで区切りをつけて解散したらどうでしょうか。それまでは賛助金納入します。

**港(全)8C 堂地 利之** △①  
 旧田村町で育ち、戦後愛宕山のウラから歩いて港工に通学した事なつかしく想ひ出されます。所用で新橋駅、御成門駅を通過する際、若き日を想ひ出します。

**港(全)8C 本多 幸一** ○①  
 私達は毎年8C級会を行っています。去年は山田先生が参加されました。

**港(全)9M 栗田 哲夫** △①  
 母校が無くなったことは会員が増えないということで、消滅は必然。適当な時期に閉会式を行えばよい。

港(定) 8 MA 石井 喜三郎 △③  
昭和 27 年入学。目黒駅から新橋駅まで通学。当時、新橋駅前に場外馬券売り場があり、一度だけ百円投資し、馬券を買い単勝を当てた。今や街の様子は一変し当時の面影は残っていないが、バラック立ての建屋が多く並ぶ街中を通学した遠き若き日の思い出が、先日汽車広場を通って時代の移り変わりを肌で感じて感慨深いものがあつた。

港(定) 8 E 石川 素宏 ○①  
ご発展を祈る。

港(定) 8 E 松井 和勇 ○①  
高校時代は若者として最大に活動出来る時です。高校生の姿を見てエールを送っています。私ことフラガールズ甲子園の役員をして活動を通じて大きな感動を得ています。努力するところに感動が生れます。これからも若者の育成に取組んでまいります。

港(定) 9 C 佐田 一郎 ○①  
77歳の現在までを振り返ると、戦時中の小学校、戦後の中学、人生の苦楽を僅かなりともわかりかけた港工時代、そして大学。その中でも高校時代の多感な頃の思い出は、懐かしさの深いものです。いつまでも俺の母校だと心に留めておきたい。

港(定) 8 E 鶴飼 邦明 △③  
2年前、10時間に及ぶ手術後、急激に高齢化が進み、人生もカウントダウンの段階になりました。老後、10年間続いたクラス会も数年前自動解散しました。

港(全) 9 P 藤澤 匡良 △①  
同窓会には一度も出ていないので、その存続を問われても責任ある答えは出せないが、卒業生や家族のためにも長くその名を残しておきたい。賛助金を納入する意志があるのは、その為です。卒業生の中には同窓会を忘れたり、知らない人もいるのではないのか？墓参の都度旧学校の前を通るのですが、寂しさがあります。

港(全) 9 E 野田 耕 ○①  
同窓会ニュース、毎回楽しみにしています。私は水泳部全盛だった頃のメンバーだったのでプールの記事を見るたび懐かしく思い出します。是非、今後とも同窓会活動を続けて頂けるようにお願いします。

港(定) 10 E 森田 貞雄 △③  
私は同窓会には出れませんが、参加者がいるなら続けてもよいと思います。賛助金については、新聞が送られてくるのでその分程度は納入したいと思います。

港(全) 9 E 高橋 諄一 ○①  
同窓会再開時は藤井先生のつきあいもあり末席をけがしました。加藤先生には元気で頑張ってください。

港(全) 10 E2 佐藤 弘司 ×①  
賛助金納入だけでなく、総会に出席することが意義があると思いいれままで出席してきました。昨年の暮、忘年会の折りに愛宕山放送博物館行き、バスケット部を思い出し男坂85段を休むことなく登り切りました。そして東京タワーを眺め当時を偲んでいました。55年前のことですが。

港(全) 10 E2 佐藤 巨克  
同窓会ニュース12号を手を致しました。そんな中、恩師の訃報があり「エロエロ(いろいろ)あるが・・・」の藤田泰彦先生の御名前が目に残りました。その時、私の頭の中にハッキリと当時のことが浮かんで来たのです。「お前はインタハイで入賞した港で初めての奴だ」と・・・

私は1955年明治神宮国立競技場で行われた東京都中学校陸上競技大会で「棒高跳び」で優勝したことを知った藤田先生は、必要な道具を全て準備して下さったのであります。そこで芝公園で練習を積み、インタハイで2位に入賞したと言うわけですから。藤田泰彦先生のご冥福をお祈り申し上げます。

港(全) 10 E2 野口 眞宏 ○①  
早坂校長先生や加藤琢二先生の寄稿文しみじみと拝読しました。先輩の御元氣な様子を知り市民講座受講とエッセイ執筆などに精をだします。

港(定) 10 M 酒井 邦明 ×①  
同年卒の同窓会を開いていますが、毎年8月末に20名位が参加してくれます。

港(全) 10 E1 岡 正義 ○  
7回りを迎えておりますが元気に、楽しく過ごしております。

港(全) 10 E2 池田 克良 ○①  
毎年6月に新橋の浪漫亭でクラス会を開いています。恩師、田島貞雄先生の病状が回復されこの6月に出席されるとの事で大喜びしています。毎年二十数名の参加を誇り「朋有り遠方より来る、亦樂しからずや」と言うことで楽しい一時を過ごします。

港(定) 10 M 長谷川 弘 ○①  
前田会長より同窓会存続の可否を問われ答に窮しています。同期会には時々参加しているものの、同窓会への参加は皆無。役員さんに任せ放して何の貢献もしていない私自身に継続をお願いする資格もない。解散はやむなしと思えます。

港(全) 11 E1 水野 武 △③  
同窓会存続の賛否を問いても結論は出ないと思うので、①50%の賛否で判断 ②役員にて結論(役員がいやいややる意義があるか・・・)。年数回のクラス会を楽しみに続けていますので、あえて同窓会は・・・と思っています。同窓会が存続している間は賛助金納めさせていただきます。

港(全) 11 E2 柏木 邦宏 △  
担任の三留先生の御名前を頂いて「三留会」の名でクラス会を開いています。70才から毎年6月にクラス会を開く事になり、昨年はタイのチェンマイへ行き、今年はハワイアンセンターに行く予定です。(14名)

港(全) 12 M 猶井 誠 ○①  
「同窓会存続か、否や」前田会長の間に心を痛めております。閉校直前に初参加して前田会長や加藤先生と話がはずんだことを思い起こされ、会長の熱い意志を引き継ぐとはどういうことか考えさせられます。この際、毎号5千部の発送の選別・縮小などして再編の出発も視野に入れていいのではないのでしょうか。私も何か出来ないかと思っている一人です。

港(定) 12 MB 野口 英司 △①  
同窓会発展のためによくお願いいたします。

港(全) 12 E1 森 正昭 ○③  
2009年より一泊のクラス会となり、3年間幹事を担当。10年は東日本大震災のため中止、11年は14名、12年は11名参加。44名のクラスだったのが、死去4名、連絡先不明7名。健康を損ねている人が多いのに驚いている。

港(全) 12 C 金村 嘉久 △①  
同窓会は思い出の「もの」を求めて集まるところで校舎もなく、学んだ設備もない、クラスメートも来て居ないでは足が向かない。若い頃何度か出席したが、クラスメートに会えなかったで行かなくなつた。2010年に都合が付いたのでクラスメート4人で出席し楽しく過ごしたが、その内の金輪一美君が翌年亡くなり悲しい思い出になつた。

港(全) 12 C 桃井 義雄 ○①  
恩師片山茂先生(電気通信)の訃報に接し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

港(全) 13 E2 林 正雄 ○①  
会社定年後からの大学の講師も今年3月で定年になりました。「くろろうさまでした、定年です。」この言葉、聞きたくないですね。

港(定) 12 C 佐藤 興八 ○  
同期の連中はどうしてへつたのだろうか？

港(全) 13 E2 宇南山 光夫 △①  
郵便友の会の記事を読んで高校時代の1ページが懐かしく思い出されました。PFCは都連合の下に城南地区連合があり、地区内で加盟する小・中・高校のPFC会員の交歓会に参加したり、中央郵便局内にある都連合へ顔出ししたりしました。修学旅行で淡路島に泊まった時は洲本高校と交歓会をしました。

港(全) 13 C 小林 勝利 ○①  
卒業以来ずっと麻雀でつながっている四人組の仲間がおります。また私は通信出身のため、アマチュア無線を生涯の趣味としておりますが、港工出身者で同好の士がおられれば、一度集まって話をしたいと思えます。このような同好会活動で同窓会を盛り上げると言うのは如何でしょうか。

港(定) 13 MB 高橋 邦夫 ○①  
東京スカイツリーが創設され、現役時代の会社が直線で2 Kmの距離でした。東京タワーの展望台が出来た頃、クラスの友4、5人と作業員が撮ってくれた白黒写真をなつかしく思い出されます。

港(全) 13 A 古戸 弘 ○①  
同窓会は「継続」をお願いしたいのですが、総会等への出席は難しい。「同窓会ニュース」は嬉しく拝見しています。相模原に住んで50年。書道、武道などの趣味の世界で多忙。

港(全) 13 C 渡井 賢二 ○①  
新橋駅馬森口の繁華街を抜けて母校に通つたとか、放課後愛宕山の放送博物館の図書館でレポート作成の下調べに通つたなどいろいろ思い浮かびます。辛かった事もありますが、今は懐かしい思い出です。卒業時の恩師、加藤琢二先生によるしく。

港(全) 14 M 渡辺 恭光 ×①  
港工が無くなり残念な思いでした。だが、会長、役員の方のご努力により港工の名を残し、同窓会ニュースを通じて港工時代思い起こさせていただき感謝の限りです。会長のお言葉誠に重く、時の流れかと残念です。籠球部同期の数人とは年一回会つたり、賀状のやりとりをしています。愛宕のそして港時代を心に刻み、語らい余生をと思えます。

港(全) 14 E1 坂本 俊一 ○①  
新橋烏森口からの通学路。部活動での愛宕山の階段(苦しかった)、実験レポート作成でのNHK博物館図書館通い、思い出はまだ沢山あります。

港(定) 13 E 砂川 海廣 ○①  
同窓会が無くなるのは寂しい限りです。会のニュースで近況等を読むのも毎回楽しみにしています。私には体力が無く、総会、懇親会等に出席できないのは残念です。

港(全) 14 E2 大海 隆 △①  
年を重ねると昔を懐かしむことが多くなります。せつかく苦労されて再開した同窓会が継続できない事には本意ですが、何のお手伝い出来ない自分としては残すべきと大声を出せません。何とか継続されることを祈っております。  
6/7に水泳部OBの小グループが集まって中華パーティーをします。

港(全) 14 E1 藤井 勉 ×③  
高齢化に伴い、同窓会は中止。港工業の記念アルバムのな物をHPで作成して、卒業生ならいつでも見れるようにしたらどうかと思います。が。ニュースも紙でなくメール配信又はHPに載せれば費用を押さえられる。

港(全) 14 C 大山 昌邦 △①  
恩師宮本先生とも昨年お別れし、港工との距離は離れるものの、同窓会は毎年4月に幹事持ち回りで行い旧交を温めております。母校とは青春の息吹を感じる所だが、思い出の記憶が消えつつある寂しさを感じます。

港(全) 14 A 大岩 巖雄 ○①  
是非、同窓会継続して下さい。もちろん賛助金も継続です。前田会長には感謝、感謝です。昭和の港工を失いたくありません。ご苦労をお願いします。どうぞ継続をお願いします。

港(全) 14 E1 星 恵三 ○①  
賛助金は納入します。ニュースは先生活方、会員の近況が分かりますので続けて下さい。

港(全) 14 C 渡辺 建夫 ○①  
クラスメートのほとんどがメーカーなどに従事している中、私は途中から全く異業種美容師として進路変更して、今も現役でがんばっています。サービス業の為、土、日祭日は営業で同窓会や総会には出られませんが、同窓会ニュースを見るたびに楽しく有意義な港工高時代を思い出します。常に母校を意識しているから、同窓会には存続すべきと思います。クラス会は毎年4月に開いており、今年は池袋の居酒屋かくれ野で17名出席で楽しく過ごしました。

港(全) 16 M 坂本 正 ○①  
本年後半までに、元の気楽な生活に戻るべく10種の葉から解放されるように精進しています。煙草は止め、酒、食も控えて体を使う事。

港(全) 14 A 平尾 修 ○①  
おかげさんで旧友との連絡が取れました。

港(定) 14 MA 柳沢 安雄 △①  
総会等への参加はできませんが、賛助金の納入は続けていきたい。この時点で休止すれば二度と再開はないと思います。

港(定) 14 MA 白石 純一 ○①  
毎回ご案内ありがとうございます。まだ仕事しており欠席します。

港(定) 14 MB 加藤 欣悟 ○①  
総会には出席出来ませんが、今後ともよろしく願います。

港(全) 16 A 斉藤 義勝 ○①  
今まで同窓会ニュースはさつ!!と見てる位でしたが、今日は全部を読みました。個人的には継続を望みますが、若い世代の方々の考えが重要と考えます。

港(全) 16 E1 竹野 健次 △①  
同窓会の存続について。世話をなされる方々の負担が大きいということであれば、閉会もやむを得ないと思います。継続は難しいでしょうね。

港(全) 18 M 遠藤 嘉彰 ○①  
賛助金、ATMより振り込みました。

港(全) 18 A 堀 成一 ○①  
小笠原先生というと剣道の授業の時のお姿と、富津の臨海学校の時のさざえの名産地の歌を思い出します。今でもちゃんと歌えますよ。なつかしいです。

港(全) 18 E2 波多野 英治 ○①  
賛助金は続けて納入いたします。

港(全) 19 M 日比野 俊文 △①  
同窓会という組織は有った方が良くと思うが、維持運営が大変そうなので無理しなくても良いと思う。愛宕に学校が無く、雑色が母校といわれても愛着はない。

港(全) 19 E1 柳田 緑雄 △①  
両角先生には教育実習で大変にお世話になりましたので一度お会いしたいと思っております。

港(全) 19 E1 加藤 誠 ○①  
同窓会の運営が大変厳しいことが判りました。私も現在専門学校卒業を担当しており、同窓会の重要なことは認識しております。今後とも続けていくことが、絆をつなぐことです。

港(全) 20 E1 小林 英二 △①  
脳梗塞の後遺症で歩行が不自由で遠出来ません。同窓会二十五周年おめでとございます。



港(全) 20 E1 小島 賢治 ○①  
自分は、なにも力にはなれませんが  
同窓会ニュースは楽しみです。理事  
の方は本当に大変だと思います。  
20 E1の皆、元氣ですか。加藤先生  
ガンバってください。

港(全) 20 E1 占野 明 △①  
高校のクラス会は、20年ほど前に開  
催したのが最後です。同窓会には一  
度も参加したことが無く、会の継続  
については役員に一任という立場で  
すが、継続するなら賛助会員として  
参加させていただきます。

港(全) 20 E1 萩原 義幸 ○①  
今年64才になりますが、今だ現役で  
働いております。同窓会に出席した  
かったのですが、どうしても業務の  
調整がとれませんので欠席します。

港(全) 20 E1 畑野 保雄 △①  
同窓会を維持していく為、諸先輩方  
の並々なぬお力が有ることは実感  
してはいましたが、改めてそのご負  
担が余りに大きいことを痛感させら  
れました。折角大変なご努力で再建  
された同窓会ではありますが、これ  
以上おんぶにだっこでは申し訳ない  
ので、どなたか有志が現れない限り  
残念ですが存続は難しいと考えざる  
を得ないようですね。協力出来ずに  
継続が必要とはいえないですね

港(全) 20 E1 板垣 秀明 ○①  
同窓会ニュースを楽しみにしつつ、  
賛助金を納入しています。これから  
も存続を希望します。

港(定) 20 MB 岩阪 雅文 ○①  
15才で九州から上京、S39年に定  
時制に入学、50年近い月日が流れま  
した。青春の原点は港工にあり！そ  
んな思いです。同窓会には一回ほど  
出ましたが、当時を語る人も明石先  
生のみで、同級の参加が無く心細い  
気がしました。会の存続は願いたい  
のですが、役員のご苦勞を思うと、  
大変のような気がします。存続を願  
いつつ、一任したいと思えます。

港(定) 21 E 盛 武雄 ○①  
当日は所用があり参加できませんが  
皆様によりしくお伝え下さい。

港(全) 25 C 小林 定夫 ○①  
同窓会継続については同窓会ニユー  
ス編集後記にもあるように、やめる  
のは簡単ですが、再出発は非常に難  
しくなります。ぜひ現在のまま続け  
て下さい。

港(全) 29 E1 安藤 敏行 ○①  
病氣により下半身マヒになってしま  
いました。前田様のマジックショー  
夫婦で楽しみにしていたのに残念で  
す。 — 安藤 内

港(定) 22 MA 桑原 敏幸 ○①  
6/15は都合つかず欠席します。  
前田知洋さんのマジック楽しみにし  
ていたのに残念です。ご盛会を。

港(全) 29 E1 神山恵一郎 ○①  
大変に御苦勞おかけ致します。あり  
がとうございます。

港(全) 29 C 吉田 和可 △①  
いろいろと諸活動お疲れ様です。こ  
れからの季節お体ご自愛下さい。

港(全) 32 E1 佐藤 英智 ○①  
卒業から32年。縁あって母校の近く  
に通勤の日々です。建物を見るたび  
にいろいろな思い出が浮かびます。

港(全) 32 E1 武田 敏英 ○①  
会費は後で振込ます。

港(全) 34 E1 小林 光明 △①

前田会長ほか、役員の方々いつもあ  
りがとうございます。同窓会存続の  
為の賛助金納入者数は、前田会長ご  
指摘の「同窓生輩出約二万人に対し  
て500名、約2・5%」と、確か  
に少ないと思いましたが、「事務局か  
らのお知らせ欄記事の「住所判明者  
約4700名の内賛助金送金者は5  
64名」と10パーセントを越えてお  
り、多くの人が同窓会ニュースを楽  
しみにしていると思えます。

港(全) 34 E1 酒井 秀育 △①  
港工同窓会ニュースを楽しみにして  
おり、同窓会の継続を望みます。

港(全) 40 M 川田 貴之 △①  
出張作業が続いておりますが、元氣  
でやっています。継続は幹事さんの  
負担考えると、「アチャコでも」

港(全) 40 M 西澤 豊 ○①  
みんな元氣でやっていますか。自分  
もなんとか頑張つてやっています。

港(全) 43 M 長澤 則之 ○①  
同窓会の運営お疲れ様です。今回も  
勤務の都合により欠席させていただきます。

港(全) 45 E2 野間 健一 △①  
どうして行くところの先が見えてくる  
のか、正直私には難しく思います。

港(全) 50 E 亀崎 真哉 △①  
総会費一万円は高い。若い年代は参  
加しづらいと思う。

港(全) 51 E 藤城 裕樹 △①  
役員様の健康をお祈り致します。く  
れぐれもお体を大切にして下さい。

※敬称及び挨拶文一部省略、極力  
原文のとおり掲載しました。

「20 周年記念誌より」

## 港工高の誕生 (その2)

本校初代校長 早坂朝太郎

昭和二十二年五月初めに、職員・生徒の労働奉仕の下に高輪の校舎から愛宕山下の現校舎に移転はしたものの、ちょうど学制改革で新制中学校として発足した区立港中学校が同一校舎に同居することに間に決められたために、ここにまた大きな困難に直面することになった。すなわち五・四年生は愛宕山下の校舎に、一・二・三年生は桜川小学校の校舎に、機械実習工場は高輪から移転できずに学校が三分されてすこぶる不都合なものとなった。

移転した愛宕山下の校舎は荒廃甚だしく、大型焼夷弾二発が屋上を貫いて三階に止まったため三階の木部は焼けて全体が黒くこげていた。またこのために雨漏りがひどく、少し長く降ると二階にまで漏ってきた。窓にはガラスがほとんどなく、水道は屋上タンクに水を揚げるポンプが損傷して水の出るのは一階だけであった。したがって二階・三階の便所は使用できなかった。何もかも暗澹たる有様であったのであるが、かかる校舎の改修整備を都当局に

お願いしても、その当時としてはどうしても手がまわらなかつたのである。職員・父兄・生徒がまず自力をもつて忍耐強く努力してゆくより他に道はないわけで、事実すばらしい熱意をもち、たゆまない努力を尽くして一歩一歩建設してきたのである。

父兄の方々の熱心は実に大したものであつて、当時苦しい家計の中から金を出してくれて校舎の修理、教材教具の整備などに絶大の努力をしてくれた。当時後援会の会長であつた西本啓先生は有力な都会議員であり、すぐれた識見を持たれかつ徳望家であつたし、山下喜代治、仁井陽三、森田虎雄、山口重治、笠原伝治、熊井紋次郎、樫原政次などの方々が西本先生の下に先頭に立つて父兄を結集して困難な問題の解決と教育環境の整備に一方ならぬご尽力をしてくださつたのである。また先生も生徒もよく労働奉仕をしてくれた。

昭和二十三年四月に新制高等学校が発足した。この際校名を改めて東京都立港工業新制高等学校とし、後に新制がとれて東京都立港工業高等

学校となった。

愛宕高等小学校の校舎は工業学校に転用するには比較的によい条件があつたので、最初からこれを希望したことは前に述べたとおりであるが、もう一つ重要な好条件があつたのである。それは疎開したままで空いている、校地に隣接した土地があつたことで、これを買収して実習工場などを建設することによって、どうやら一人前の工業学校になれるということである。それゆえに愛宕山麓に移転すると直ちに東京都当局にお願

いして隣接土地の買収に努力したのであるが、これもまたなかなかの難問題で一方ならず苦勞をした。ひとつづきの土地であつたが、三人の所有主に分かれていて、お一人の方は麻布に残つていた旧麻布工業学校の校地と交換という方法で、いろいろの問題はあつたが割に早く解決した。もう一人の方は初めはすこぶる調子よく運んで喜んでいたら、何分にも金を出して買収してくれるのは東京都当局であるためになかなか速かにはいかないうちに、無断で他に売られてしまつた。これは校地の狭い港工高であるだけに今思い出しても残念でならぬ。もう一つの方は面積は最も広がつたが、所有者と使用権者とは別々で、所有者はたしか、埼玉県におられたと記憶している。使用

権者にいろいろお願いしても承諾してくれず、忍耐強くお百度参りをしよてようやく承諾していただいた。この土地の買収にも父兄の方々と、とくに山口重治さんが非常にご尽力下さつた。山口さんの車の後ろに乗せてもらつて随分いろいろのところへ走り回つたし、所有者の郷里にも二、三回いっしょに行つてお骨折り下さつたことを思い出す。結局お二人の所有者からひとつづき計三百坪程の土地を買収し終るまでには満三年以上もかかつた。しかしこの隣接土地の買収に成功したことは、いろいろの難問題を持つ港工高が愛宕山下に不動の地位を占める重要な布石をしたことになつたのである。

日本がだんだん復興してくるにしたがつて東京都も次第に金を出してくれるようになり、買収した土地の約半分に木造平屋建の機械実習工場を建築して高輪から待望の移転をした。かくて今まで三分されていた港工高が二分の状態となり、望ましい姿に一歩前進した。

昭和二十六年六月、議員立法第一号として産業教育振興法が制定されたことは、荒廢したわが国の産業教育を復興しさらに前進させるために実にすばらしい効果を挙げることになつた。二十七年から毎年引きつづいて産業高校とりわけ工業高校の施

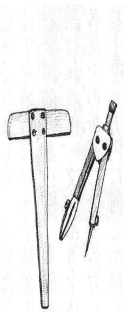
設備が改善充実され、港工高も過去が貧弱であつただけに恩恵を蒙るとききわめて大であつたのである。たしか昭和二十五年であつたらうか。同居していた区立港中学校の新社舎が目度く落成して新社舎に移転し、ここに初めて東京都立港工業高等学校は分校を閉鎖して緑さわやかな愛宕山下の校舎に一つになった。思えば、愛宕高等学校の校舎を転用することに決定するまでは実に電光石火であつたが、さて移転後はきわめて困難な長い道であつた。

何もかも書くことは適當でないので遠慮して書いたのである。昭和二十一年の三校統合から港工高が完全の一つになるまでの間に、区長さんは三人、教育課長さんは五人くらい代わられて、そのたびに問題は新しくなつて少し後もどりするもので、それを盛り返してゆかなければならなかつた。非常に幸いだったことは区会議長さんは徳安実蔵先生がお一人で一貫され、初めから変わらないご尽力を下されたし、区会議員の河村末松先生も一貫してご尽力下さつたことであつた。

昭和二十九年に、かねて希望していた自動車実習工場を、買収した土地に、すでに建ててある機械実習工場と連接し、鉄筋コンクリートで建築することになった。これは産業教

育振興法にもとづく国庫補助のはいつている都費で建てるのであるが、金額の都合でさしあたり一階きり建てられないので、父兄の方々と同窓会の方々と寄付金を加えて、基礎工事と建築物の強度とを、すべて三階まであげられるようにしてもらつた。このころに至つては、愛宕山下の土地は非常に高価なものとなつていたし、また今後買収しうる見込みの土地も全然なく、したがつて空に向かつて伸びる以外に今後発展の方法がなかつたからである。

東京都立港工業高等学校は、ようやく基礎が確立しただけで今後まだまだなすべきことが多く、いろいろ計画中のところ昭和三十年十月一日東京都立北豊島工業高等学校に転任を命ぜられて、心ならずも去らなければならぬようになった。思えば満九年半、苦勞の連続であつたが、職員・父兄・生徒の方々の非常なご支持と、多くの辱知の方々の暑いご援助とによつて、私なりの力いっぱい元気に働かしていただいていたことを今も心から感謝申し上げている。



## 硬式野球部の思い出

港工同窓会会計理事  
旧職員 港(全)3期P

加藤 琢 二

今、手元に平成25年9月25日付け「日刊スポーツ」紙がある。19面で、「ゆかりの街を歩く」との書き出しで、プロ野球の読売ジャイアンツのリーグ優勝の記事が掲載されている。東武電鉄館林駅の群馬県館林市は気温が日本トップクラスの暑い所で茂林寺がある。その近くにあつた分福球場で、猛練習したジャイアンツが、73年前初優勝した有名な話の紹介記事だ。

港工業高校の野球部はこの分福球場で夏合宿を、約10年間続けたけれど福島先生、宮本先生、吉野先生、豊山先生、増淵先生、中井先生、小川先生、両角先生、佐藤先生、松田先生、菊池先生、森田先生、金子先輩に大変なご協力を戴き、秋の公式試合で好成績を期待した。これでグラウンド無しのクラブに充分な練習の完成を図つたのだ。秋の新人戦は幾度も勝ち進んだことがあり、合宿の成果が裏付けられた。

でも狭い中庭や、屋上を金網で囲つたり、保護者から寄付されたピツ

チングマシンで打撃練習をしたりノックをして不足な練習を補つても、なお足りなかつた。

グラウンドを持つ他校との試合を出来るだけ組んだ。

そして部員と顧問は皆、土日返上になつた。その家族は誰かが欠けて、一家団欒の阻害要因となつたのだ。



### 事務局より

※会員名簿は、個人情報保護の観点から発行予定はありません。

クラス名簿は本人確認の上、送付します。

※創立20周年記念誌(昭和41年)

創立50周年記念誌(平成8年)

閉校記念誌(平成16年)DVD付の在庫が有りますので、ご希望の方は、ご一報下さい。

なお、六郷祭(11月2、3日)の同窓会ブースでも展示します。

## ○返信ハガキの編集から

多くの方から同窓会存続の御意見を頂き、ありがとうございます。存続希望が圧倒的に多いので我々役員も、ホットしております。但し、返信を読むと誤解されている面が少々あるようなので、追加でご説明をさせていただきます。

まず、六郷工科高同窓会との関係ですが、同・同窓会と港工同窓会と合体することはありません。それは全く違う学校だからです。

高輪（麻布）↓港工の例を出すことがありますが、これは、いわばグレードアップ。旧校が新校にそのまま引き継がれております。

だが、六郷工科高は全くの新設校で、港工他、羽田工、鮫洲工などの廃校になった工高の事務を引き継いでいるに過ぎないのです。港工にあった機械設備の移設、教員の移動など、全く関係がないとまでは言えません。高輪から港工に変わったのとは少し事情が違うようです。将来どうなるか予測出来ませんが、当会と六郷同窓会が一緒になることは無いでしょう。但し、我々の会の方が古く永く歴史も有るし、六郷工科高を間借りしている以上、先輩同窓会として協力したり、六郷祭の同窓会展示室を同じにしたりなどの協力

体制はとれるでしょう。

この、学校の変遷（高輪、麻布、港、六郷工）と、同総会については来春「ニュース13号」で前田会長からの詳しい説明を載せる予定です。

役員（理事）の若返りを・・・の御意見も多く見受けられましたが、実はここが一番の問題のところだと思います。引き継いでくれる若い世代が出てくれば、我々古い世代はいつでも引き下がります。だが、若い年代の方々が同窓会に積極的でないのが現状なのです。それは返信ハガキからも見てとれます。卒業20期頃以降の返信が極端に減ります、未だ現役世代、朝早くから夜遅くまで働いて同窓会どころではないでしょう。この世代の方も定年過ぎて、時間の余裕が出来れば同窓会活動に参加していただけのこととは期待できます。

若い世代が同窓会に興味を示さないのは、我が港工同窓会のことだけでなく、どこの学校でも同じ事がいえます。

通信手段が発達した現代はメールなどで旧友と手軽に「話し合ったり」出来るので同窓会組織など必要としないのです。結局、我々70才位の古い役員が同窓会を支えるしかないのが実情です。

今の役員（理事）でいいやいややっている者など一人もおりません、

誤解の無いように。ボランティア精神旺盛で、少しでも皆さんのお役に立てたなら、それが生き甲斐と考えております。それも、同窓生の方々の熱い支えがあればこそ成り立つこととです。

今のところ、直ちに同窓会を閉鎖することは考えておりません。賛助金の納入状況をみたり、返信ハガキからの同窓生の方々の御意見を聞きながら考えます。同窓会ニュースも当面は春・秋の年2回発行するつもりでおります。但、現在5千部近く発送しているのを賛助金納入者及び恩師の約2千部以下にし、全員発送は数年に1回とします。

パソコンで情報をとることに慣れた若い世代の方に、ホームページの運用をもっと充実していくように努力します。

（編集理事 中西悦夫）

発行人

港工同窓会（六郷工科高校内）

連絡先

〒278-0051

千葉県野田市七光台158-5

会計理事 松岡信之

T 080-1278-1584 F 04-7129-0916

E-mail atagoyama@ninatokou.net

## ◇編集後記◇

港工初代校長・早坂先生の「港工誕生秘話」の読後感想文や「郵便友の会」の誕生に関する情報を、お寄せ下さったことなど、編集部としては大変嬉しいものです。記事が読まれている証になるからです。

3年間の高校在学中に知り得なかった「秘話」とか、面白い？話などお持ちの方まだまだいらつしやることとでしょう。せつかく同窓生の方々のために作っている新聞ですから、皆さんの興味をそそるような記事をお待ちしております。

返信ハガキを拝見して、同窓会存続の意義が有ることを改めて感じ、心新たに理事の役目を尽くしていきたいと思えます。それには毎回お願いしております賛助金の納入で我々理事の活動を支えて頂きたいのです。それと、別項にもありますように30期以降の方の反応が余りありません。お仕事多忙とは思いますが、一寸手を休めてメールでも打ってください。

卒業後、連絡がとれなくなった級友を捜したり、クラス会を計画したいがどうしたらいいか分からない方なども同窓会を利用してください。この同窓会ニュースを「会」からの一方通行にしたくないのです。御意見、記事などをお寄せください。